

レポート

安心・安全な 機密文書処理システムを展開

白井グループ／白井エコセンター(株)

事業所が排出する紙ごみの中でも、情報漏えいなどの危険性から、その処理がネックとなる機密文書類。2005年の個人情報保護法施行以降、より慎重な処理が求められている。関東を中心に廃棄物ビジネスを手掛ける白井グループ(代表取締役白井徹)は、2004年から機密文書処理サービス「SSセキュリティボックス」を提供している。これは、事業所から排出される機密文書や機密メディアを集荷から処理まで未開封・無選別のまま行うサービスで、フランチャイズ形式で全国に9社展開している。

地図、バーコード、写真で 集記記録を確認

同システムでは、機密文書と機密

メディアを専用ボックスに分別する際、ホッチキスやクリップで留めた書類、バインダーに入ったものも全て裁断せずにそのまま排出できる。ポイントとなるのは、各ボックスに貼る管理バーコードだ。バーコードごとに集荷・運搬・処理の工程を管理することで、ボックスの誤配や紛失などのリスクを限りなく抑え、GPS衛星によるリアルタイムでの運搬経路の追跡も可能にした。

処理施設に運搬後、メディア類は破砕、紙類は溶解処理を行う。全ての作業が完了した時点で、GPSで追跡した運搬経路、配送情報、集荷・運搬・処理状況の写真画像などが記録された「記録完証印」を発行。一連の工程を踏むことで、排出事業者が処理現場に立ち会う経費や時間の削減につながっているという。



トレーサビリティシステムで使用する端末セット

本社の東京23区内での回収量は1カ月当たり約100t。同サービスのユーザーは金融機関など約100社で、このうち半数がGPS機能やバーコード管理システムを使用している。より安心・安全な処理を求めている大企業などを中心に、リピーター

になるケースが多いという。白井グループ／白井エコセンター(株)の滝口千明社長は「バーコードによる管理システムやGPS監視をはじめ、各工程状況をこまめに記録として写真に収めることで、現場に実際に立ち会ったような安心感を感じていただけるよう努めている」と語る。

カスタマイズ可能な 管理システム

白井グループは、同サービスのバーコード管理やGPS管理システムの汎用型ソフト「トレーサビリティシステム」を開発した。使いやすさを追求し端末にはスマートフォンを採用。業務の始まりから終わりまでを写真、地図、バーコードを使ってリアルタイムに報告ができる。業務に合わせてカスタマイズも可能なので、廃棄物運搬業に限らず、解体業や一般貨物運送業などへの応用が期待される。開発を担当した同グループ御内氏は「さまざまな事業者に広く使用していただきたい」と話す。ハード面の初期投資は9万円、端末50台まで月額8万円で利用でき

る。W